

# 令和6年産 『<sup>み</sup>のう 耳納連山れんげ米』づくり基準 (田主丸町耳納山麓水系地帯)

人と自然の架け橋に。 JAIにじ



重点事項

- 健全な苗づくり ①種子更新100% ②うす播き (催芽粉1合3勺(150g)/箱) ③ずんぐり苗 (25日苗、3葉苗)
- 健康な土づくり ①緑肥レンゲのすきこみ ②土壌改良資材の投入 ③深耕 ④稲わらのすきこみ
- 安全な米づくり ①減農薬栽培 ②減化学肥料栽培 (緑肥レンゲ、有機入り肥料)
- おいしい米づくり ①レンゲすきこみ量・生育に応じた施肥 ②適期収穫 ③適正な乾燥・調製
- 安定した米づくり ①植え付け株数60株/坪 ②早期地干し、中干しの徹底 ③気象変動に対応した管理

『化学合成農薬使用回数10成分以内』 『化学肥料施肥量(窒素成分)4.25kg/10a以下』

月・旬	生育	主な作業
5月	上 育苗期	・レンゲすきこみ ・温湯消毒  ・播種 ・土壌改良資材投入 ケイカル、ミネラルG、とれ太郎、珪酸カリ、ホスピタ
	中	
	下	・基肥 ・耕起、代かき ・育苗箱施薬(フイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤 又は、ブーンゼクテラ箱粒剤) ・移植 ・浅水管理 ・除草剤散布
6月	上 移植期	
	中 活着期	・間断かん水 (地干しによりガス抜きをする)
	下 有効分けつ期	
7月	上	
	中 無効分けつ期	・中干し (茎数20本/株から)
	下	・湛水 ・穂肥 (出穂20~18日前)
8月	上 幼穂形成期	・間断かん水
	中	
	下 出穂期	
9月	上 登熟期	・スタークル粉剤DL 又は、 スタークル顆粒水溶剤
	中	・落水
	下	・収穫 ・乾燥 ・調製
10月	上	
	中 成熟期	・耕起 ・レンゲ播種

## 品種特性

移植時期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	耐倒 伏性	穂発 芽性	外観 品質	食味	10a当 玄米重 kg/10a	耐病性	
5・28~6・4	8・20	9・27	85	19.0	350	やや弱	難	上の中	上の中	480	いもち	白葉枯
											やや弱	やや弱

## レンゲすき込み量の目安

- ①レンゲ草4kgの場合 → 4トン
- ②レンゲ草3kgの場合 → 3トン
- ③レンゲ草2kgの場合 → 2トン

1m×1mのレンゲ草の地上部の生草重量(4月中下旬)



## 温湯消毒

- ①温湯消毒後、直ちに播種しない場合は、籾を水分15%以下の乾燥状態にした後、通気性の良い冷暗所で保管すること。
- ②温湯消毒後は、病原菌が付着しないように十分注意すること。

## 施肥基準 ◎有機エムコート256を施用する場合は、穂肥は施用しない。(化成分は4.25以内に抑える)

土壌改良 資材	4月中下旬の生育量と生え具合 (10a地上部生重)	基肥 有機エムコート256 (12-5-6)	穂肥	窒素成分	
				全窒素量	うち化成分
ケイカル又は 粒状ミネラルG 200kg 又は とれ太郎 60kg 又は 珪酸カリ 40kg 又は ホスピタ 40kg	生育旺盛、均一にびっしり(4トン以上)	40kg	—	4.8	2.4
	生育旺盛、均一 (3トン)	50kg		6.0	3.0
	生育中程度、7割生え (2トン)	60kg		7.2	3.6
4月中下旬の生育量と生え具合 (10a地上部生重)	生育旺盛、均一にびっしり(4トン以上)	基肥 スーパーユーキくん1号 (10-8-8)	穂肥 スーパーユーキくん3号 (10-3-8)	窒素成分	
				全窒素量	うち化成分
				8月1日頃 30kg	5.0
生育旺盛、均一 (3トン)	30kg	6.0	2.94		
生育中程度、7割生え (2トン)	40kg	7.0	3.43		

- 注1) 基肥はレンゲすきこみを移植前30~20日前にした場合です。  
2) 窒素成分には、レンゲ草の窒素分は含んでいません。

## 除草剤使用基準 除草剤使用はいずれかの1剤を1回以内とします!

選択例	除草剤名	成分数	10aあたり 使用量	使用適期 (移植後日数)	効果のある ノビエ葉齢	留意点
1	ゼータプラスフロアブル	2	500ml	3~12日	4.0葉まで	畦畔から散布する場合には、ノビエ3.0葉期までに使用する。
2	ゼータプラス1キロ粒剤	2	1kg	0~12日	4.0葉まで	クログワイ・オモダカは、発生前~発生始期までに使用する。
3	ゼータプラスジャンボ	2	10パック	3~12日	4.0葉まで	セリは、再生前~再生始期までに使用する。

## 病虫害防除基準 基本防除は下記資材を適期に使用!

	農薬名	成分数	使用量	防除適期	留意点
基本	フイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤 又は、ブーンゼクテラ箱粒剤	3	育苗箱 1箱当たり50g	田植3日前~ 田植前日	・1箱当たりの使用量が少なすぎると効果が落ちる。 ・散布後はかん水し、剤を落ち着かせる。
補正	スクミンベイト3	0	2~4kg	田植直後	・ジャンボタニシによる食害を防ぐ。
補正	オリゼメート粒剤	1	3~4kg/10a	出穂3~4週間前	・白葉枯病の常発地は防除する。
補正	ノンプラスバリダ粉剤DL 又は、ノンプラスバリダフロアブル	2	3~4kg/10a 1,000倍 100ℓ/10a	出穂直前 収穫14日前まで	・いもち病発生初期や紋枯病による収穫減を防ぐ。
基本	スタークル粉剤DL 又は、スタークル顆粒水溶剤	1	3kg/10a 2,000倍 100ℓ/10a	穂ぞろい期の 7~10日後	・ミナミアオカメムシに効果がある。

注1) 箱施薬は、田植3日前~田植前日。(効果を安定させるため、できるだけ前日までに散布する。) なお、散布後は茎葉に付着した薬剤を床土に落とした後に水をかける。

2) カメムシ対策として出穂14日前までに畦草刈りは実施します。

れんげ米は特別栽培米であり、農薬の成分数は、最高で10成分以内しか使用できませんので、ご注意ください。

農薬の登録は、随時変更されています。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認しましょう!

## 《レンゲ栽培のポイント》

1. 目的  
①地力増進・環境保全型稲作 ②景観向上 ③コストの低減 ④養蜂支援 ⑤米販売促進
2. レンゲの生育を良くする秘訣  
①土壌 pHが5.2以下(酸性)の田は石灰質資材を散布する ②耕起は均平に行う  
③排水不良田は排水溝をつくる
3. レンゲの播種  
①播種時期……原則、稲刈り後、耕起し、播種する。(10月中旬~下旬)  
播種は耕起してすぐか、すぐ播種ができない時は、雨が降る前日又は雨が降った翌日に行う。  
稲の立毛中に播種の場合は刈り取り前15日~稲刈り直前までに(播種量3割増)。  
レンゲ連作は場で播種時期を早くすると、すき込む前に害虫に食べられてしまうので、11月に播く。  
②播種量……10a当たり3kg(1㎡当たり3g)  
③播種方法……稲刈り後播種は、ロータリーで浅耕した後に散粒機又は手で播種する。軽く鎮圧すると発芽が良くなる。
4. レンゲのすきこみ  
①レンゲのすきこみ時期……田植えの30~20日前が最適。4月下旬~5月上旬頃の花の満開直前~田植え2週間前。  
②すきこみ後、レンゲの分解のため最低1週間は田に水を入れないよう注意。

この栽培暦は、JA米の生産基準を兼ねています。栽培履歴報告書に記入漏れや間違いがないか確認しましょう。JA米とそれ以外を区分してJAに出荷しましょう。

## JAにじ管内農業振興協議会

久留米市田主丸町産業振興課  
☎ 72-2111

JAにじ 営農部  
☎ 75-4200

JAにじ 営農センター田主丸  
☎ 72-1150

久留米普及指導センター  
☎ 0942-47-5101

令和5年12月作成